

RESULTS
the power to end poverty

飢餓と貧困をなくすための政策提言を行う国際市民グループ

日本リザルツ

action
Advocacy to Control TB Internationally

Tel : 03-5280-2888 Fax : 03-5280-2889 E-mail : info@results.jp

国際エイズ会議・リザルツ国際会議・世界銀行 出張報告

2012年7月20日～7月27日



特定非営利活動法人日本リザルツ

コミュニケーション・ディレクター 鰐部行崇

Tel : 03-5280-2888 Fax : 03-5280-2889 E-mail : wanibe.results@results.jp



* 日本リザルツ名誉顧問ムハマド・ユヌス博士



* ストップ結核大使ルイス・フィーゴ



* ストップ結核チャンピオン亀田興毅

リザルツは、政治家やメディアと協力し、貧困に苦しむ人々の声を政策に反映させ、「貧困と飢餓のない世界」を創ろうと活動している国際市民グループ(NGO)です。日本の他、米国、カナダ、英国、フランス、豪州、ドイツ、メキシコなどで活動しています。日本リザルツは1989年の発足以来、ODA(政府開発援助)政策において、貧困削減への費用対効果が高く、且つ、顔の見える援助政策について、政府に提言しています。リザルツのユニークな活動方法は、草の根の市民から、国務長官のヒラリー・クリントン氏、経済学者ジェフリー・サックス氏、元南アフリカ大統領ネルソン・マンデラ氏など世界の著名人達に至るまで、幅広い層の支持を得ています。マイクロクレジットでノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行のムハマド・ユヌス氏は、日本リザルツの名誉顧問です。

2013 年にはタイでアジア太平洋地域国際エイズ会議、そしてマレーシアで **HIV** 基礎研究・治療・予防会議が開催される予定であり、**2014** 年には第 **20** 回国際エイズ会議がメルボルンで開催されます。

日本にとっても身近なアジア・オセアニア地域でエイズ関連会議が開催されることからより多くのNGOの方が関心を持ってぜひ参加しましょう。

I. 出張概要

1. 日程	2012 年 7 月 20 日（金）～2012 年 7 月 27 日（金）
2. 出張者	(1) 白須紀子（事務局長） (2) 新里由布子（アドボカシー&リサーチ・ディレクター） (3) 鰐部行崇（コミュニケーション・ディレクター）
3. 目的	(1) 国際エイズ会議への出席 (2) リザルツ国際会議への出席 (3) 世界銀行への訪問

II. 要旨

《国際エイズ会議》

1. 今回の会議を貫くテーマは「Turning the Tide Together（共に潮流を変えよう）」。前回テーマは「エイズとの飽くなき戦い」とであったが、治療薬の進歩、治療アクセスの実績向上という結果を踏まえてセッションの題名では「The end of AIDS」と全般的にエイズ征圧へ積極的なトーンが目立った。
2. 今回、開催国である米国は PEPFAR を通じて AIDS 対策として新たに 1 億 5 千万米ドルの供出を約束し、積極的な姿勢を提示した。一方で国連は 2011 年より「Getting To Zero」キャンペーンを主導しており、米国と国連の AIDS 対策は其々独自路線を歩んでいる状況には変化が無い様子であった。今後引き続き世界的な連携に向けて更なる協議が必要と思われる。

《リザルツ国際会議》

1. 毎年この時期に開催される国際会議も今年は国際エイズ会議に関連したセッションが多かった。一方で MDGs 関連のセッションではジェフリー・サックスコロンビア大教授、イボンヌ・チャカチャカ氏（アフリカの歌姫）も登壇。両氏には会議中接触し TICAD V における市民社会の活動へのご協力を要請した。
2. また IMF 世銀総会で開催が予定される国際連帯税シンポジウムで仏パートナーから仏国開発大臣パスカル・カンファン氏の推薦があったことより帰国後国際連帯税フォーラムにて協議し招致を決定した。

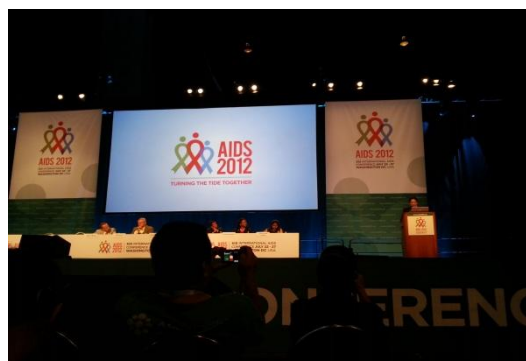
《世界銀行》

1. 保健セクションでは結核診断技術法で現在、日米で競合している状況と異なり、世銀内では米国の Gene Xpert 法が広く普及している様子であり、一方で日本の LAMP 法は全く認知されていなかった。本件については巻き返しを図っていく必要が有ると考える。
2. 世銀の教育関係職員からは日本政府として世銀関連団体である Global Partner Education を含めた何等かの方策があるのかということに高い関心が寄せられた。

II. 出張記録 — プログラム概要及び特記事項を中心に

1. 国際エイズ会議

米国政府がこれまで HIV 陽性者に対する入国規制を行っていた為、今回のワシントンでの国際エイズ会議は米国にとって 22 年振りの開催となるもの。会議公式サイトによれば 195 カ国 2 万 3000 人が参加した模様。



(1) プログラム概要及び特記事項

① 7月22日(日)

プログラム概要	
《HIV/TB 関連》	
13:30-15:30 「患者の声に応えるグローバルイノベーションシステムの提案」 現行のイノベーションシステムは費用が高く、発展途上国の HIV/AIDS や結核感染者の役に立っていない。多くの治療法や薬剤が開発されてはいるものの、本当に貧しい人々には届いていない。本セッションでは、こうした課題とともに、資金が少ない国でも手に入る医療ツールの開発を促すためのイニシアティブを示す。HIV と結核の関連性も調査する。	
15:45-17:45 「南部アフリカ開発共同体 (SADC) の一体化—HIV/AIDS、結核、マラリア対策の統合に向けて」 SADC は世界の HIV/AIDS とともに生きる人々の 3 分の 1、報告されている結核感染者の 50%を抱える。5 人に 1 人の子どもの死はマラリアに関連している。こうした地域の HIV の流行を受け、SADC メンバー国は 2003 年に HIV/AIDS に関するマセル宣言を採択し、地域の統一目標とした。その後のパリ宣言、UNAIDS の“3 つの統一”イニシアティブなどに基づき、SADC は対策に取り組んでいる。これまでの進捗報告などを行う。	
15:45-17:45 「NACS (栄養評価・カウンセリング・サポート) の HIV ケアサービスへの導入」 NACS は、HIV や結核治療に栄養管理を導入しようというアプローチである。本セッションでは、NACS の概要およびこうした栄養評価が保健サービスに与える効果などを示す。	
《世界基金》	
9:00-11:00 「HIV/AIDS の予防および治療の効果を高めるためにグローバルなプレーヤーを活用する」 本パネルでは、世界基金のような世界の主要な保健分野のドナーの方針などを評価する。パネリストは世界基金によって支援されている AIDS 治療の持続可能性の評価、HIV 予防のために必要な資金の検討、HIV/AIDS などの疾患への投資により“お金の価値”を高める政策手段を世界基金が利用する可能性について検討する。	
9:00-11:00 「HIV/AIDS 必需品の VPP : VPP がその目的を達成し、その効果を最大限に引き出すために」 世界基金は医薬品を効率的に提供するメカニズムとして VPP (Voluntary Pooled Procurement)を設置した。VPP は、調達迅速さ、提供の確実性、保健商品の信頼性と品質、適切な価格設定、現地の調達や提供能力の強化をサポートすることを目的としていると世界基金は定義している。本パネルディスカッションの議題は、VPP の促進および制限要因に関して討論する。	
11:15-13:15 「世界基金の国別調整メカニズム (CCM) : 管理および暫定的な資金提供機関 : キャパシティービルディング・セッション」 本セッションは、CCM メンバー、世界基金内の担当者、技術支援代理人、市民社会、CCM 監督に関わる人のためのセッション。	
13:30-15:30 「経済危機状況下における HIV/AIDS 対策のための資金の持続可能性」 HIV/AIDS は PEPFAR、世界基金からの大きな資金援助を受けている。最近の世界的経済危機の中、HIV/AIDS サービスのスケールアップは厳しい状況にある。これは、サービス規模の縮小や、不本意な結果や、抗レトロウイルス耐性につながる可能性がある。本セッションはこうした課題における様々な見解を共有することを目的とする。	
13:30-15:30 「世界基金と PEPFAR : さらなるインパクトのための戦略的協調」 世界基金と PEPFAR は合わせて世界の高負担国や低財源国における HIV 対策の 90%以上の資金援助を行っている。もともと持続的支援を目的としていた世界基金と緊急支援を目的としていた PEPFAR だったが、近年はそれぞれ新しい試みも始めている。本セッションでは世界基金と PEPFAR とパートナー国家の共通目標達成に向けた取り組みを報告する。	
15:45-17:45 「2012 年の世界基金 : 新たな方向性」 世界基金や技術協力パートナーの代表者が最近の世界基金の進捗報告を行う	
特記事項	
《開会式》 ワシントンに在住するゲイ男性合唱団による美しいコーラスを皮切りにキャスリーン・セベリウス米厚生長官、カレマ・モトランテ南ア副大統領、潘基文国連事務総長、バーバラ・リー上院議員、ジム・キム世銀総裁、ミッシェル・シディベ国連エイズ計画 (UNAIDS) 事務局長、ジンバブエのアンナ・サンゴさんとそのお嬢さん、ビンセント・グレイワシントン DC 市長、マークディブル大使が続々とスピーチを行った。 開会式で印象深い演説は以下の通り。	



● キャスリーン・セベリウス米厚生長官

「この 22 年間で我々は科学の進展と治療対策の効果により大きなブレイクスルーを迎えつつある。今日、HIV 陽性と診断されても、的確な治療を受けた人は健常者の平均寿命近くまで生きて行くことが可能になった。しかしエイズの無い世代という最終ゴールにはまだ不十分であり、より効果的なプログラムを多く実行する必要性は疑うべくもない事実である。」

● 潘基文国連事務総長ービデオ演説

「国連は 2015 年までに母子感染をゼロにする目標を立てているが資金面でのサポートは不十分と考えている。一層の取り組みが必要である。」

● ジム・キム世銀総裁

「先進国で治療薬の開発と承認手続きを変え、途上国で抗レトロウィルス薬の治療アクセスを求める運動を開始し、エイズ予防、治療対策を持続的かつ大規模に進めてきたのはエイズアクティビスト達だった。今、世銀はエイズに関連する全ての機関と連携して、市民社会の声を重視して、エイズとの戦いを終わらせることを誓う。世銀はシステム構築が得意だ。総裁として包括的な経済開発に向けたイノベーション、また実践的なノウハウの蓄積等に意欲的に取り組んでいく。エイズの流行は終わらせることが出来る。」



● ミッシェル・シディベ国連エイズ合同計画（UNAID）事務局長

「先進国からの資金が頭打ちになる中でこのままでは十分な対応は取れない。エイズ対策は続けていけば必ずゼロ目標に届くと確信している。世界的な連帯と責任を共有していかなければならない。2015 年の目標を達成する上では各国の現状以上の協力が必要となる。」

② 7 月 23 日（月）

プログラム概要
《HIV/TB 関連》 7:00-8:30 「HIV ケアおよび治療のナースモデル：長期持続可能性に向けた保健ワークフォースの不足の提示」 本ワークショップは、HIV/AIDS や結核などの合併症の治療に関するナースモデルの概要を示す。大学や NGO や政府のリーダーたちの見識を聞くことができる。 8:40-10:30 「エイズ流行の終わりへ：共に潮流を変えよう」 ヒラリー・クリントン国務長官が登壇。下記に演説の抜粋を記載。 11:00-12:30 「HIV と二重感染」 4 つの小セッションを開催。タンザニアにおける B 型肝炎との二重感染、髄膜炎スクリーニングの導入、ベトナムにおけるペニシリンの利用、TLR4 多型が日和見感染に及ぼす影響を討論する。 13:00-14:30 「潮目を変える：女性、子ども、HIV 合併結核」 毎年多くの犠牲者を出しているにも関わらず、HIV 合併結核は女性や子どもの保健問題としてあまり注目されていない。政治的意思の欠如、不十分な拠出、スティグマなどが障壁である。2010 年の AIDS 会議でこの問題を取り上げてから 2 年、未だ課題は多い。本セッションではパネリストがこの問題について討論する。 16:30-18:00 「新旧の結核治療薬の薬理学」 最新の研究についての報告及び討論を中心とする。 18:30-20:30 「南部アフリカ鉱山地域における結核と HIV」 鉱山地域（特にレソト、モザンビーク、南アフリカ、スワジランド）における HIV、結核、移民との関連、SADC による新しい地域政策、鉱山就業者の国家移動と HIV、結核への影響などについての体験を報告する。
特記事項
〈大会議場〉 午前のセッション「エイズ流行の終わりへ：共に潮流を変えよう」ではヒラリー・クリントン国務長官が登場。開会式以上の観衆が詰め掛け、中には入れなかった。クリントン氏の発言骨子は以下の通り。 「我々はエイズが治癒出に出来るものであると認識出来るようになった。エイズの無い世代に向けて米国はオバマ政権のもとでまず PEPFAR は緊急体制から持続的なエイズ征圧に向けた機能強化を行う。我々の責任として、PEPFAR が次の取り組みとして具体的なゴールや計画達成に向けて主体的に動くことを先導し、また次の世界エイズデーまでに新たな計画を発表することを求めている。」と宣言。また HIV を持った子どもが 1 人も生まれてこない、若者が新たに HIV に感染しない、HIV をもつ人が AIDS を発症しないという 3 つの柱を実現した世の中に変えていくためのさらなる努力を呼びかける力強いメッセージを送った。

〈ディベート〉

夕刻の午後 6 時より世銀主催によるディベートが開催。タイトルは「HIV/AIDS への資金配分」
ミッシェル・シディベ国連エイズ合同計画（UNAID）事務局長やジェフリー・サックス教授らが講演。
世界的な経済後退が鮮明になりつつある現在の環境下で確実に国際援助も後退を余儀なくされている。かかる状況下、援助資金を更に効率的及び効果的に利用していく必要があるというもの。

③ 7 月 24 日（火）

プログラム概要

《HIV/TB 関連》

11:00-12:30 「選ばれた代表者達による HIV 合併結核問題への取り組みを強化させる為の方法論」

HIV/AIDS とともに生きる人々にとって結核はもっとも身近な死をもたらす病である。3400 万人の HIV/AIDS とともに生きる人々の 3 分の 1 以上が結核に感染している。本ワークショップでは、国会議員に HIV 合併 TB 問題に取り組んでもらうためにどう接したらよいかを、国家、地域、国際レベルで示す。アドボカシーという用語をより深く理解してもらうために、HIV 合併結核薬研究、ワクチン、診断の分野で活躍する研究者たちが話し合いに参加する。HIV 合併結核についてのポスト MDGs に向けて、研究者、学者、アドボカシー活動家、国会議員がどのように協力し合えばよいかについての理解を深める。

14:30-18:00 「HIV 合併結核による死を予防するための活動を拡大しよう」
予防可能かつ治療可能な病気であるにも関わらず、2010 年における HIV 患者の死の 4 分の 1 は結核によるものだった。2004 年に WHO は HIV-TB 共同活動に向けた暫定政策を打ち出し、2010 年末までには 170 以上の国家でこれが実施され、100 万人近い命が救われた。しかし今後さらなるスケールアップが求められている。本ワークショップでは、さまざまな国や地域における HIV 合併結核への取り組みの経験を共有することを目指す。国内の結核、HIV 対策プログラムマネージャーが最近の結果、障壁、スケールアップに関する経験について話し合い、最後に今後の課題や必要な評価を検討するパネルディスカッションを開く。



16:30-18:00 「HIV および結核の治療および予防に向けた費用対効果の高いアプローチ」
最新の研究の成果を報告する。

《世界基金》

7:00-8:30 「アフリカの人々にとっての世界基金：アフリカには世界基金の全面協力が必要」

世界基金がアフリカの保健政策に与える影響を検証する。アフリカの CSO 代表者と世界基金担当者によるスピーチとパネルディスカッション。



特記事項

〈ワシントン市内のデモ行進〉

会議場からホワイトハウスの 1.5 キロを数千人規模でデモ行進。行進では低所得国に安価な治療薬を訴えるプラカード等に加えて、オバマ現政権が進める TTP に反対する団体も多く参加した模様。

④ 7 月 25 日（水）

プログラム概要

《HIV/TB 関連》

8:40-11:00 「HIV/TB 共同活動の強化：サービスの統合を通じて潮目を変える」

HIV/AIDS とともに生きる人々にとって結核は主要な死因である。二重感染関連死を減少するために HIV と TB のサービス統合に向けたさまざまな取り組みが行われてきている。本セッションでは、こうしたサービスの統合と現地での提供に関する経験談や成功例をハイライトする。

11:00-12:30 「エイズ征圧への効果的な対策：HIV 感染と顧みられない熱帯病の進行のインパクトにおける関連性」

熱帯地域に住む貧困層は HIV に感染するとともに熱帯病に苦しむ患者集団が有る。今回のセッションではこのような顧みられない熱帯病 (NTDs) と HIV の相関性を科学的に分析するとともに今後の対策を提言する。

本セッションでは WHO 中谷事務局長補が登壇。



《世界基金》

7:00-8:30 「世界基金理事会やその他の世界基金統治体に市民社会が参加する方法

世界基金理事会における市民社会の役割、世界基金の危機が世界の市民社会組織全体に及ぼす影響について話す。

特記事項

〈エイズに関連する各種団体のサテライトセッションー世界基金〉

会議開催期間中、エイズ研究以外でも多くのサテライトセッションが開催。中でも世界基金のセッションには多くの NGO が積極的に参加。この背景には 2012 年から 2016 年までの中期経営期間において世界基金が多くの組織改革に着手しており、NGO 側でも関心が高いと推測される。特に改革の中でも新しい資金提供スキームは議論の中心。

今回の改革案は世界基金側の説明によると従来のラウンドベースと呼ばれる 1 年掛けて資金提供の承認を行うプロセスから受益国との対話及び承認プロセスを 2 段階に分割してオンデマンドプロセスを強化した新スキームに移行しようというものであり、本年 9 月に世界基金理事会にて承認され、同 11 月より施行しようというもの。

この新スキームには個別プロジェクトへの資金提供額にキャップを設けるということも検討されており、この点で問題がある。キャップを今回設ける要因はこれまでなし崩し的に途上国に資金が流れているのではというドナー国側からの視点から出発したものであるが、NGO からは受益国の本当のニーズに対応出来ない、エイズ征圧への大いなる逆行と捉えられている。



〈グローバルヴィレッジ〉

グローバルヴィレッジとは、世界中の国際組織やパートナーシップや NGO が各々ブースを出し、自分たちの活動を紹介する、また活動に関心のある団体をつなぐネットワークづくりの場となっている。

日本リザルツは米国 RESULTS や他の ACTION プロジェクトのパートナーとともに、ACTION ブースを出展。ACTION とは Advocacy to Control Tuberculosis Internationally (結核対策に向けたアドボカシーを行う国際パートナーシップ) のことで、RESULTS が展開する主要なプロジェクトの一つ。米国、日本、イギリス、カナダ、オーストラリアをはじめとする各国のリザルツの他、フランス、インド、ケニアなどのさまざまな NGO がパートナーシップを形成している。

各セッションのブースでは国際 NGO 以外ではセックスワーカーやトランスジェンダー等が団体を結成して多くのセッションを積極的に開催（但し今回、他国からのセックスワーカーは入国拒否。米国内の団体のみ出展）。実に多様かつ前向きな姿勢が目立ち、We can end AIDS の精神が浸透していることにも感銘。因みに日本から出展している団体は日本 HIV センターのみ。



⑤ 7月26日(木)

プログラム概要

《HIV/TB》

11:00-12:30 「TB 診断：インパクトを生み出すための改革」

TB 診断に関連する研究に関する報告が中心。

16:30-18:00「共に潮流を変えるためのリーダーたちの見解:地自体首長、国会議員」 30 年の中でようやくエイズのゼロ目標が実現しそうな展開になってきた。本セッションでは政治、財政、立法がどのように国連によるエイズ征圧目標に貢献するかを討論する。 本セッションでは川田龍平参議院議員が登壇（後述）。	
《世界基金》 11:00-12:30 「カネをもってこい! : 政治的責任、財源、価値の評価」 本セッションでは、今起こっている世界基金の危機について、新たな資金提供者をどう関与させるかなどに焦点を当てる。MDGs における AIDS の立場、ポスト MDGs でどう扱うかについても検討する。	
14:30-16:00 世界基金：次の 5 年 2002 年以来的の世界基金の活動を検証するとともに最近の世界基金改革について討論する。	
特記事項	
〈世界基金関連セッション — 抵抗する NGO〉 シンポジウム「世界基金：次の 5 年」において世界基金担当者が演壇に立とうとするといきなり、NGO メンバー数十人がデモを起こし演壇を占拠する騒ぎ有り。「CAP=DEATH」という垂れ幕を掲げながら連呼し、このようなキャップがいかに受益国に悪影響を及ぼすか説明が有った。 但し NGO による騒ぎが有っても会議は粛々と進み、登壇したフランス大使館関係者、世界基金担当者の中にも NGO の主張に共感を示す様子が感じられ、世界基金内の微妙にコンセンサスが違うことを見受けられた。	
〈川田龍平議員の演説〉 16:30-18:00 の会議「共に潮流を変えるためのリーダーたちの見解」では日本から参加している川田龍平議員がメインスピーカーとして自らの生い立ちや薬害エイズ運動に取り組まれた経緯を説明。HIV に感染したことを聞かされた時の絶望、また HIV 感染者との交流の中で克服を克服し、薬害エイズ運動に本格的な取り組みを開始、日本の HIV を取り巻く環境が変わり薬害エイズへの取り組みがメディアの多くに取り上げられ裁判で政府との戦いに勝利する等大きな成果を結んだこと等に言及。 その後、HIV 問題を始めいのちを優先する社会を創る為に国を内側から変える為に国会議員になったこと、また各国の中にはまだ様々なチャレンジがあることは否めないが国境を越えて手を繋ぎ連帯していこうと会場に呼び掛けられた時には一斉に大きな喝采が有った。	
	

⑥ 7 月 27 日（金）

プログラム概要	
11:00-12:30 「HIV、結核の未来」 近年、HIV/AIDS とともに生きる人々における結核の治療や予防に関する知識の向上やサービスのスケールアップについて大きな進歩があった。しかしなお彼らの結核負担は大きく、新たなアプローチが必要とされている。本セッションの目的は、HIV や結核の最新の進歩の概要を提供することである。特に、結核の診断、予防、治療、HIV-TB ケアの提供、結核ワクチン開発の状況に焦点を当てる。HIV に感染している子どもの割合についても言及する。	
特記事項	
〈閉幕式〉 閉幕式には出席出来なかったが、同式上で「ワシントン宣言」が読み上げられた。 ワシントン宣言では資金供与の拡大、予防及び治療に向けた検査機会の拡大、検査 HIV 感染者に対する偏見の根絶、結核等周辺疾病への対応等を纏めた 9 つのアクションプランを挙げられた。	

2. リザルツ国際会議

リザルツは貧困撲滅への政策提言や普及啓発活動（アドボカシー活動）を行っている国際市民グループであり、マイクロクレジット、ストップ結核、ワクチン普及等のキャンペーン活動を行い、等民意の反映された国際援助の実現、飢饉と貧困の根絶を優先する政治的意思の確立を推進している。全米各州に支部を持ち、他に英国、オーストラリア、カナダ、フランス等で活動している。

リザルツ国際会議は毎年 1 回、全米のみならず世界各国から関連する団体の職員やボランティアがワシントンに集結する。今年の会議は国際エイズ会議と重なった為、海外からの参加も増えた。



主要ゲスト

- ✓ ディーン・ベイカー（中央政治経済研究所 共同所長）
- ✓ イボンヌ・チャカチャカ（南アフリカ出身の世界的なアフリカ歌手、通称「アフリカの歌姫」、人権活動家）
- ✓ マイロン・コーヘン博士（AIDS 予防治療の医療チームを率いて活躍中）
- ✓ ディック・ダービン（イリノイ州 上院議員、議員）
- ✓ ジェフリー・サックス教授（世界的に有名な貧困問題、国際開発に取り組む経済学者）
- ✓ マフュー・ラマタラペン博士（世界基金副理事長、前レソト保健大臣）
- ✓ マリアン・ウィリアムソン（国際的に有名な平和活動運動家）
- ✓ ラジブ・シャー 米国開発庁長官

① 7 月 20 日（金）

特記事項

〈ボード・レセプション〉

ワシントン国際空港からホテルへ到着し、そのままりザルツ役員会議後のレセプションに参加。

席上でフランスのパートナー代表より「現在、仏政界内で連帯税について最も積極的なのはパスカル・カンファン（Pascal Canfin）開発副大臣が最も適しており、ジャック・アタリ氏より良いのではという意見が有った。カンファン氏は弱冠 37 歳であり現政権に入る前はコンサルタントだった。

② 7 月 21 日（土）

特記事項

〈プレセッション〉

朝 9 時からのセッションに早くも全米各地から集まったボランティアが集結。最初の会議では「Creating Advocates」。アドボカシーのマネージャーからアドボカシーの要諦についてプレゼン。聴衆からの反応は極めてポジティブで自分がアドボカシーで実現したいと思っていること等を会場内に設置しているマイクに向かって積極的に発言。

ボランティアとは夜のワシントンウォーク等で親しくなった。リザルツのボランティアは全米の各州単位で定期的にチャプターを開催している。また月に 1 回はリザルツ専任スタッフが全米レベルで TEL 会議を開催。これらを通じてアドボカシーへの共有意識向上を組成し、地元での地道なアドボカシー活動、寄付者数の拡大、地元議員へのロビー活動に取り組む。このボランティアの「Take Action」が米国市民団体の厚みであり、強みであることを実感。

〈開会式〉

夕方のオープニングセッションでジョアン・カーターは演説。今回、国際エイズ会議に関連付けて話題はこれまでボランティアの市民活動がエイズ対策に寄与したこと（PEPFAR の誕生等）が中心であった。

締め括りに際して安倍前首相と面会したウィンストン・ズルさんの写真がパネルに映し出され、ズルさんの「アドボカシー活動がエイズ、ポリオ、結核に罹った僕の心と体に光を与えてくれた」という言葉を紹介して終えた時に聴衆からの割れんばかりの拍手とスタンディングオベーションで会場は包まれ誠に感動的な瞬間だった。



③ 7月22日（月）

特記事項

〈セッション開始〉

ホテルでの各ボールルームでセッションが複数開催。リザルツの場合、アドボカシー団体であることから各時間帯では必ず「Advocacy Boot Camp」や「Advocacy skill」というタイトルの講習があり、専任スタッフが説明。

それ以外でも国内外で多く活躍している著名人を集めたセッションが開催された。

主だったゲストは以下の通り。



〈ジェフリー・サックス教授〉

ジェフリー・サックス教授がジョアン・カーターとともに登場。会場はこれまで以上に熱気に包まれ、400人近くの聴衆が参集。サックス教授はアフリカでエイズ、マラリア、結核に苦しむ惨状を目の当たりにして世界銀行が対応しないことを強く批判、世界基金を立ち上げる際に奔走したこと、これからの地球問題 - 特に食糧問題、気候変動が重要なテーマになること等多岐に亘るテーマを語った。その明確かつ鋭い内容に聴衆は興奮と陶醉に浸っていた。

日本リザルツはサックス教授をぜひ今秋に東京に迎えて、学生有志とともに TICAD V に向けた会議を主催したいと考えている。講演終了後に慌ただしく立ち去るサックス教授を何とか捕まえて来日を懇請。サックス教授の今秋の来日実現に向けた取り組みを今後も継続。

〈イボンヌ・チャカチャカ〉

イボンヌ・チャカチャカはアフリカを代表するシンガーでアフリカの歌姫と呼ばれている。アパルトヘイト政策下の南アフリカのソエトにて生まれ、少女の頃より頭角を表しボーノやビヨンセ等共演するようになりアフリカ中に知られるシンガーとなった。

2011年フォーブス誌ではアフリカで最も影響力のある著名人として8番目にランクされている。ネルソン・マンデラ元大統領からの信頼も厚く、同大統領から子供基金の大使に任命されている。またマラリア大使、世界基金の支援者等社会貢献活動の担い手としても知られている。

リザルツの会合ではドナーランチでは美しい歌声でリザルツのこれまでの活動に対する感謝とアフリカへの一層の支援の呼び掛けを歌った。またリザルツの各国責任者会議ではオーストラリアで2013年初に開催予定の結核会議及び同年6月に開催される TICAD V にはイボンヌは参加して積極的に活動したい旨言及が有った。



特記事項

〈コングレッショナル・レセプション〉

夕刻、リザルツ主催するコングレッショナル・レセプションに参加。キャピトル・ヒルにあるレイバーン・ビルのバンケット・ルームにて、多くの米国議員らが招待された。リザルツのスタッフやパートナー、ボランティア、国会議員、大使など、約200名以上が集まった。

スピーチにはディック・ダービン氏、ボブ・ベネット氏等合計6名の国会議員がスピーチを行い、リザルツの草の根運動を称えた。また国際エイズ会議で南アフリカ政府一行からの挨拶の後にイボンヌ・チャカチャカによるショーがあり会場は大いに盛り上がった。



3. 世界銀行訪問

恒例になっている世界銀行本部をリザルツ各国スタッフやボランティアとともに訪問。リザルツがフォーカスしている保健、マイクロファイナンス、教育について世界銀行との問題意識の共有等を図った。

(1) 保健セッション

先方：クリスチャン・バエザ保健局長、リトバ・ライニッカ アフリカ地域人間開発局長他

世界銀行が近年導入を支援している、米国の新たな結核診断技術 Gene Xpert 法 (WHO 承認済、FDA 未認可) についての評価が話し合われた。簡便で有効であるという高い評価の一方で、電力消費が大きいことが課題であり、電力供給が安定しない途上国では、途中でシステムが落ちてしまう等課題はある模様。日本リザルツが支援を行っている日本の検査技術 LAMP 法 (WHO 未承認、厚生認可済) には特段の言及は無かった。

10月の世銀 IMF 総会における保健セッションには期待感の表明有り。また一方でリトバ・ライニッカ アフリカ地域人間開発局長よりこの場では不適切としながら、日本政府側にアフリカの教育問題について今後取り組む可能性は無いのかという質問とも要望とも分らない言及があった。



(2) マイクロファイナンス

先方：CGAP (Consultative Group to Assist the Poor) ティルマン・エアベック CEO
ケイト・マッキー シニアアドバイザー他

リザルツ側からは20名近いボランティアが参加し、非常に大規模なミーティングとなった。現在、CGAPではマイクロクレジットにおける金融商品ラインアップを拡充することでのこれまで金融サービスを受けられなかった人々が金融サービスを受けられるようになることを検討。特に保険商品の開発拡充に注力している。

CGAP内ではファイナンシャルインクルージョン (金融包摂) 政策の成長というのをテーマに置きつつ毎期の施策を練っている由。



(3) 教育問題

先方：GPE (Global Partner for Education) ロバート・ブラウティ事務局長他

貧困国における教育問題について話し合われ、教育へのアクセスや平等性、特に女子教育に関する課題等が取り上げられた。リザルツ側からは GPE の業務拡大の一方で世銀の教育投資が減少している事実を問題点として質問。GPE 側としては世銀との棲み分けを説明。また席上、日本は政府レベルでは教育への予算配布には関心が無いのかという質問があった。

